

ECDO 論文 3：現代西洋支配勢力が差し迫った地球物理的大災害に備えている証拠

ジュノ

ウェブサイト（論文のダウンロードはこちら）：sovrynn.github.io

ECDO 研究リポジトリ：github.com/sovrynn/ecdo

junhobtc@proton.me

Abstract

2024 年 5 月、「The Ethical Skeptic」として知られる匿名のオンライン著者が、Exothermic Core-Mantle Decoupling Dzhambekov Oscillation (ECDO) [18] と呼ばれる画期的な理論を発表しました [17]。この理論は、地球がこれまでに回転軸の突然かつ壊滅的な移動を経験しており、その結果、回転慣性によって海洋が大陸に溢れかえり、全世界的大洪水を引き起こしたことを示唆しています。さらに、この理論は説明的な地球物理学的プロセスと、同様の軸転覆が差し迫っている可能性を示すデータも提示しています。このような大洪水や世界終末の予言自体は新しいものではありませんが、ECDO 理論は科学的で近代的、多分野にわたりデータに基づいたアプローチのため、独自に説得力があります。

本論文は本テーマに関する私の 3 作目 [8, 9] であり、今回はこの理論の現代における政治的側面に焦点を当てます：

1. 西側諸国の権力者たちが地球物理的大災害が差し迫っていると信じており、その出来事を政治的・軍事的に利用しようとしているという内部告発者の証言。
2. その出来事への備えとして建設された西側諸国の大規模な地下および海底基地の証拠。
3. これらの基地の資金調達のために、西側諸国の通貨構造から莫大な資金が流出している証拠。

本稿は、西側の支配勢力が差し迫ったと信じる地球物理的大災害への備えとして行っている広範な準備活動について記録するものである。

1. フリーメイソンと「アングロサクソン・ミッション」

2010 年 1 月、内部告発者の証言を収集する代替メディア・ジャーナリズム団体「プロジェクト・キャメ

ロット」は、2005 年 6 月にロンドン市内で行われたシニア・メイソンの会合に実際に出席したインサイダーにインタビューした [15, 32]。その会合で話し合われた議題は、差し迫る「地球物理的大災害」、すなわち地球規模の自然災害を背景とした軍事・政治的計画であった。

この内部関係者によると、会議に出席していた 25~30 人は「……全員イギリス人で、その中にはイギリス国内の人ならすぐにわかる有名な人物も何人かいる……そこには多少の貴族階級があり、かなり貴族的な背景を持つ人もいる。私がその会議で確認した一人は、政府の上級政治家だ。他の二人は警察の幹部で、もう一人は軍の人物だ。二人とも全国的に知られている存在で、いまの政府に助言する上で重要な人物だ この現在の時点で」 [15]。内部関係者はその会議に出席した理由について、「まったくの偶然です！普通の 3 か月ごとの会議だと思っていました……私はその会議に行きましたが、予想していた会議ではありませんでした。彼らは、私がその地位に就



Figure 1. ロンドンのアールズコートで、核爆弾を落として世界を支配しようと静かに企てている、自然な姿の英国フリーメイソンたち 1992 年 [30]。

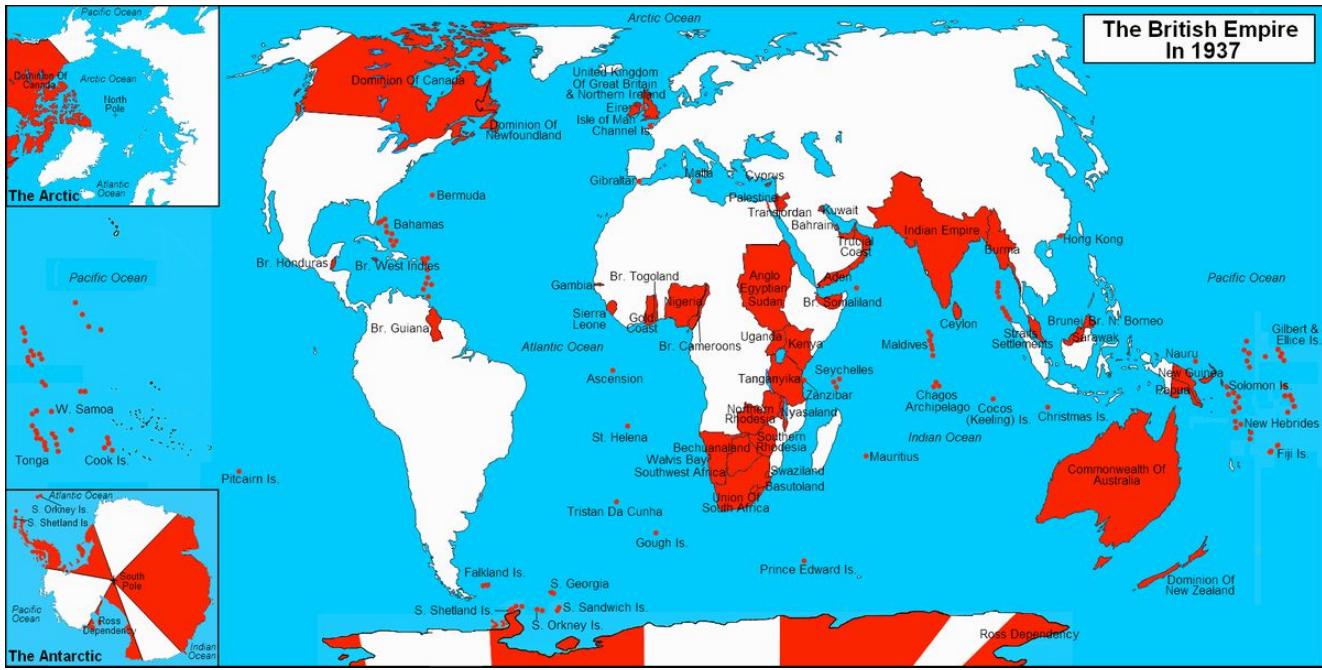


Figure 2. 1937 年の大英帝国、アングロサクソンの力強さを誇示する様子 [11].

いていたこと、そして自分たちと同じ考え方の人間だと思ったから招待されたのだと思っています。」[15]。

2005 年の会議で議論された出来事の基本的なタイムラインは次のとおりです：

1. イランまたは中国を挑発して戦術核兵器の使用に追い込み、限定的な核戦争を引き起こした後、停戦を成立させること。
2. 中国に対して生物兵器を解き放つこと。報告によれば「70 年代から」主な標的は中国とされている。
3. 結果として生じる恐怖と混乱を口実に、全体主義的な軍事政権を導入すること。

しかし最も重要なのは、これらの出来事の後に何が起こると予想されているかである：「だから我々はこの戦争に突入し、それが終わった後……地球上で地球物理的なイベントが発生し、それはすべての人に影響を与えるだろう」[15]。インサイダーは、この地球物理的イベントの最中、「地殻が約 30 度、約 1700 から 2000 マイル南方に移動し、それが大規模な激変を引き起こし、その影響は非常に長期間にわたって続くことになる」[15]と考えている。

このような秘密計画のすべての理由は、もちろん権力のためである。インサイダーは説明する。「その時までに、我々全員が核戦争と生物兵器戦争を経験することになる。もしこれが起こった場合、地球の人口は劇的に減少するだろう。この地球物理的イベント

が起こる時には、残った人々もさらに半減する可能性が高い。そしてそれを生き残った者が、次の時代に世界と残された人口を導くことになる。つまり我々が語っているのは大災害後の時代である。誰が支配するのか？誰が主導権を握るのか？すべてはそれに関わっている。そして彼らがこれらの出来事を一定の期間内に起こそうと必死になっている理由もそこにある……[混乱] が起こる前に、何とか生き残れるような仕組みを用意しておく必要がある。それによって翌日には再び両足で立ち上がり、これまで享受してきた権力を保持できるようにするためである」[15]。インタビューでは、この計画の名称「アングロサクソン・ミッション」についても議論されている：[インタビュアー]：「……なぜ『アングロサクソン・ミッション』と呼ばれているかというと、基本的にこの計画は中国人を一掃し、大災害とその後の再建の時に、周囲に誰もいない新しい地球を再建し受け継ぐ立場にアングロサクソンがいるようにする、ということですね。正しいですか？」[インサイダー]：「それが正しいかどうか私は実際には分かりませんが、あなたには同意します。少なくとも 20 世紀を通じて、また 19 世紀・18 世紀以前に遡っても、この世界の歴史は主に西洋および地球の北部から運営されてきました」[15]。

予想される地球物理的イベントの正確な時期について、インサイダーは次のように推測する：「……感覚的なものですが、彼らは今、計画をまとめなければならないと考えている……それがいつ起こるか、かなりよく把握しているはずです……私には非常に強

い感覚があり、それは自分の生きているうち、つまり今から 20 年以内に起こるというものです……最後のイベントが起こってからすでに約 11,500 年が経過しており、それは約 11,500 年周期で繰り返されていることを考えると、今まさに再びその時期に入ったのです……彼らはそれが起こることを理解している。それが起こるという確実な知識を持っている……繰り返すが、もし彼らが知らないというのならあり得ない話だ。世界最高の頭脳がこのために彼らのために働いているはずです」 [15]。

これは私たちが非常に感謝すべき強力な証言である。インタビューでは、著者は第一次世界大戦および第二次世界大戦が作られた戦争であるという自身の信念、そしてアングロサクソン・ミッションが確実に何世代も前に遡るものであることも語っている。インタビューが行われた 2010 年からすでに 15 年が経過している。地球物理的イベントに関するインサイダーの 20 年という予測期間の終わりまで、残り 5 年である。

1.1. ドルイド的・西洋における大災害の秘教知識

繰り返される大災害についての西洋の知識は、フリーメイソンだけでなく広く維持されている。ドルイドは、少なくとも 2400 年前に遡ることができる、よく記録された古代ケルト文化である [35]。彼らは地球で繰り返される大災害に関する知識を伝えてきた。最後の知られているドルイドはベン・マクブレディとされている。1992 年のドキュメンタリー「最後のドルイド」では、彼はドルイドの知識について次のような情報を共有している：「伝統上、私が最後の一員かもしれないこの組織は、最後の大きな大災害、つまり世界を襲った大変動の後に誕生した。今、この大規模で恐ろしい地球への影響 大きな電気嵐、隕石の尾や流星群に巻き込まれることで、我々が知る文明は完全に壊滅した……あらゆる知識は組織の中で受け継がれたが、特に天文学に関心が寄せられた。というもの、彼らは非常に多くの大きな災難を経験したからである。天文学への完全な理解は、こうした災害が発生する条件を予測し、何らかの方法で自らを守る行動を取るのに役立つと考えられた。アイルランドの巨大な巨石遺跡群を見れば、『通路墓』と呼ばれるものが、実は非常に原始的な防空壕であることが分かる。これらはすべての津波の水位よりはるかに高い場所にあり、隕石雨からも身を守ることができるので」 [4, 31]。

2. 現代西洋における終末的災害への備えの証拠

支配的な西洋の権力者たちが、世界規模の地球物理的カタストロフが差し迫っていると信じているように見えることから、彼ら自身をそのような出来事から守るために大規模な準備が行われていると考えるべきです。そして実際に、複数の西洋諸国にまた

がる広範囲な地下深部基地のネットワークの存在が、パブリックドメイン上の証拠として示されています。このような施設は、核戦争時に住民を守ることはもちろん、様々な種類の自然災害からも保護する役割を果たします。Project Camelot におけるイギリスの上級フリーメイソンの証言 [15, 32] によれば、これらのシナリオは単なる可能性ではなく、むしろ計画的な行動であるようです。また、これらの基地を建設、運用、人員の確保や維持管理するためには莫大な資金が必要であり、その金額は米国政府から 18 年間で行方不明となった膨大な数十兆ドル（次節で解説）ともうまく一致します [10, 20, 33]。絶滅規模の出来事に備えた他の例としては、種子や知識のアーカイブプロジェクトなどが挙げられます。

2.1. アメリカの地下および海底基地

私が見つけた中で最も詳細な地下基地の公開調査は、リチャード・サウダーというアメリカの独立研究者によるもので、彼は地下深部基地に関する複数の著書を出版しています [16]。サウダーの研究は、政府の文書や計画のアーカイブ、過去および現在のニュース記事や技術の調査、情報源の開拓、内部告発のまとめから構成されています。サウダーの調査によれば、アメリカおよびその領土の内外には、大規模な地下深部および海底基地のネットワークが存在し（図4）、少なくとも 3 マイルの深度に達する可能性があり、地下真空チューブによる高速磁気浮上列車で繋がれている可能性もあるとのことです。これらの基地は、アメリカ合衆国という会社の所有者である同じ人々によって運営されている、”ハイファイナンス、国際的、省庁間、資金洗浄によるシェルゲーム”を通じて巧妙に資金提供されています [16]。キャサリン・オースティン・フィッツ（その研究は次節で解説）と彼女の協力者によって行われた追跡調査では、アメリカの地下および海底基地の数は 170 箇所と推定されています [21, 6]。

以下は、これらの基地の規模を詳述したサウダー



Figure 3. ホワイトハウスとペンタゴンの地下には実際に何が存在するのか？明らかに、深い地下トンネル網が存在する（画像：[13]）。

American Underground and Undersea Bases (Partial List)

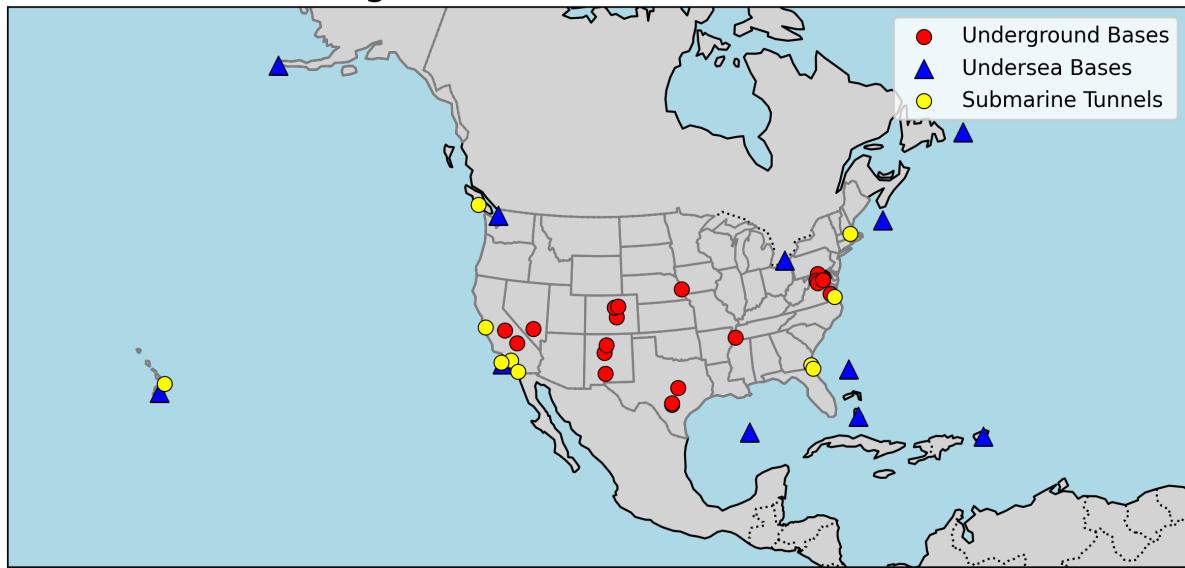


Figure 4. サウダーの研究によって、地下および海底基地が確実に存在するとされる場所、さらに内陸に通じる潜水艦用の水中トンネルが示された地図。サウダーは「これら以外にももっと多くの施設が存在することは間違いない」と述べている[16]。

の情報源からの証言の抜粋です：

1. メリーランド州キャンプ・デービッド：「私の情報源は、キャンプ・デービッドの地下部分は非常に広大かつ複雑で、秘密のトンネルも何マイルにも及ぶため、誰一人として全施設の地図を完全に頭に入れている者はいないだろうと話していました」[16]。
2. ホワイトハウス（ワシントン D.C.）：「私の親しい友人の一人が、1960 年代のリンדון・B・ジョンソン政権時代にこの施設の地下に案内されました。彼女はホワイトハウスのエレベーターに乗り、そのまま直通で下へ降りました。エレベーターは 17 階分降りたと彼女は考へています。地下でドアが開くと、遙か遠くまで消えていくような廊下を案内されました。その廊下の両側にはさらにドアや別の廊下がありました」[16]。図3参照。
3. メリーランド州フォート・ミード—1970 年代に偶然「地下室」に入り込んだ情報源の証言：「ドアを開けると階段室がありました。手すりの間から下を覗き込むと、何階分下まであるか数えませんでしたが、大体 15~20 階ぐらいの深さがあると感じました…1 階分降りるとドアがあり…ドアを開けて頭を突っ込んで左右を見ると、どちらの方向にも見えないほど続くトンネルがありました。それは建物や駐車場の敷地よりも遙かに広範囲に及んでいました。反対側の壁には



Figure 5. ウォルター・カーシュナーによる海底基地のイラスト。彼は 1960 年代、アメリカ海軍のチャイナレイク武器センターのロックサイト海底基地チームのイラスト레이ターでした。サウダーの情報源の一つによると、チャイナレイクには地下一マイルの深さに地下基地があるとされています[16, 3]。

約 9~12 メートルおきにドアが並んでいました…さらに数階降りてみたところ、同じような構造が続いていました…もう 1 階降りて覗いてみても、最初の 2 階と全く同じでした」[16]。

サウダーはまた、時速 2,000 マイルに達する地下磁気浮上列車、海底下に建設された基地（図5）、陸地へと

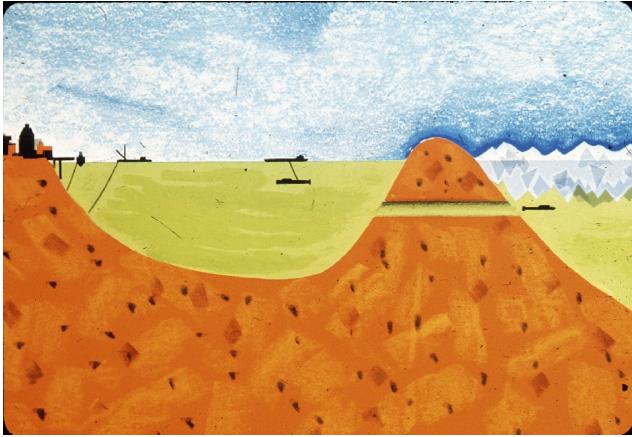


Figure 6. ウォルター・カーシュナーによる水中潜水艦トンネルのイラスト [16, 3]。

続く水中潜水艦トンネルについての証言も受け取りました。メキシコ湾の海底基地に関する証言の一つについて、サウダーは次のように述べています。「『水中および地下基地 (Underwater and Underground Bases)』の出版から約半年後、私はある男性から連絡を受けました。彼は普通ではない水中プロジェクトについて知識があると言いました…。彼はそのプロジェクトがメキシコ湾の海底下にあり、パーソンズ社が請負業者だと特定しました。さらに彼は、パーソンズが海底 2,800 フィートの運用向けに特殊装置を購入したと語りました…その機器は、設置された場所に生身の人間がいることを明白に前提としているほど特徴的です」[16]。

If there really is a vast secret transcontinental network of 170+ underground and undersea bases dug to depths of miles beneath the surface under our feet, connected by hypersonic vacuum-tube maglev trains, funded using the fruits of our labor, the masses of humanity today would be in a state of terminal and blissful ignorance, not only unaware of what is under them but what lies ahead of them in the near future, as they lap up the empty and coordinated statements of their politician handlers.

もし本当に、私たちの足元の地下深く何マイルにも及ぶ 170 以上の地下・海底基地が、超音速の真空チューブ式リニアモーターカーによって結ばれ、私たちの労働の成果によって資金提供されている広大な秘密の大陸横断ネットワークが存在するならば、今日の人類の大衆は末期的かつ幸福な無知の状態にあるだろう。自分たちの足元に何があるのかだけでなく、近い将来に何が待ち受けているのかさえも気づかず、政治家たちによる空虚で調整された声明をありがたがって受け入れているのだ。



Figure 7. 南チロル、イスのバンカー。イスはヨーロッパアルプス山脈にまたがり、山岳バンカーを巧妙に偽装していることで知られている [22]。

2.2. 追加の防空壕および終末準備の証拠

アメリカの地下王室基地以外にも、世界中には終末準備の手がかりが数多く存在する。ノルウェー、イス、スウェーデン、フィンランドはその良い例である：

1. Project Camelot は、ノルウェーの政治家からの関係する証言を共有した [12, 24]。彼の身元は確認されたが非公開とされている。彼によれば、ノルウェーには 18 もの大規模な地下基地があり、ノルウェー（イスラエルや「他の多くの国々」とともに）は何らかの自然災害に備えてこれらの基地を建設しているとされる。リチャード・ソーダーもまた、ノルウェーの中空の山に造られた大規模な地下基地の内部に入ったことのある男性から証言を受け取っている [16]。
2. イスはアルプス山脈の高地に数多くの核シェルターを建設していることによく知られている（図7）。これらの数は驚くべきことに 370,000 以上であり、全住民を収容できるだけの規模である [27]。
3. スウェーデンとフィンランドにも、主要都市の住民全員を収容できるだけの防空壕が存在している [27]。

シリコンバレーのビジネスタイクーンたちも、どうやら事情を把握しているようだ。伝えられるところによれば、「LinkedIn の共同創設者であり著名な投資家であるリード・ホフマンは、今年初め『The New Yorker』誌に対し、シリコンバレーの億万長者の 50% 以上が地下バンカーのような“終末対策保険”を何らかの形で購入していると見積もった……『Forbes』の寄稿者であるジム・ドブソンによれば、多くの億万長者は”すぐに出発できるよう”プライベートジェットを所有しているという。彼らはまた、バイクや武器、発電機も所有している」[14]。



Figure 8. ノルウェーのスヴァールバル世界種子貯蔵庫には 100 万点以上の種子が収められている [5]。いったいどのような大災害がその利用を必要とするのだろうか。

また、Arch Mission Foundation が運営する Global Knowledge Vault[1] やスヴァールバル世界種子貯蔵庫 [28] のような、人類の重要な資産を絶滅レベルの災害に備えて保存しようとする大規模なアーカイブプロジェクトも存在している。

3. 大規模地下基地の資金調達メカニズム

では、どのようにして 170 以上の大陸横断型地下および海底基地の巨大なネットワークが、債務奴隸を闇にとどめつ资金調達されているのだろうか？これらのプロジェクトにどれほどの資金が投じられているのか、またその出所を知る手がかりとなる証跡がある。2017 年、アメリカの投資銀行家でブッシュ政権時代の元政府高官であるキャサリン・オースティン・フィッツと、ミシガン州立大学の経済学者マーク・スキッドモアは、米国政府で 1998～2015 会計年度に 2.1 兆ドルもの無許可支出があったことを突き止めた [10, 20, 33]。

彼らの報告書によれば、”2016 年 10 月 7 日、ロイターがスコット・パルトローによる記事（2016 年）を掲載し、2015 会計年度に陸軍が 6.5 兆ドルの根拠のない会計調整を行い『帳簿が均衡しているという幻想を作り出した』と報じた。その年の陸軍一般基金予算は 1220 億ドルに過ぎなかつたため、これは驚くべき発覚だった… 国防総省（DOD）は 2001 年 9 月 10 日、国防長官ドナルド・ラムズフェルドが議会公聴会（C-SPAN, 2014）で国防総省が 2.3 兆ドルの取引記録を紛失したと証言したこと、大きなメディアの注目を集めていた… この告白はその日のニュースとなつたが、翌日に起きた 9.11 の悲劇によって世界の注目から消え去つた… マーク・スキッドモア教授が根拠のない陸軍取引が 6.5 兆ドルあったと知ったとき、フィツツ女史に連絡を取り、2017 年春に HUD や DOD で同様の大規模な根拠のない取引が他にもないかを

調べるために、共同で作業することに合意した。以降半年間、スキッドモア、フィツツ、そして少数の大学院生チームは公式な政府文書を収集し、1998～2016 年の間に合計 21 兆ドルに及ぶ記録不能な取引が特定された”[20]。

同じ 1998 年から 2015 年までの 18 年間における、米国政府が公式に認めている受取総額は 40.8 兆ドルに過ぎず [26]、米国政府収入の半分以上に相当する金額が地下基地に極秘で支出されていたことを示している。また、この秘密資金は長年に渡る予算赤字の上に発生しており、今日まで継続しているばかりか、1998 年以前からも存在していたと推測されるため、地下基地に費やされた総額は 21 兆ドルを大きく超えると考えられる。同じ秘密支出の比率を 2016 年から 2023 年までの期間に適用すると、1998 年以降の総支出額は 36.6 兆ドルとなる。

2021 年、マーク・スキッドモアは、ブルームバーグによる発表を受け、2017～19 会計年度にペントAGON が驚異的な 94.7 兆ドルの会計調整を記録したことについて、本研究のアップデートを発表した [19, 2]。もし 1913 年の連邦準備制度設立以来 1 世紀以上にわたり発生した中央銀行制度を通じたドルの偽造を考慮するなら [34]、全ての公的ドル会計が完全なダブルスピーキーのたわごとであり、米国通貨と政府はその王族的所有者がいくらでも（あるいは好きなだけ）静かに資源を引き出すことのできる資源配分システムに過ぎないことが明らかとなる。

4. ヨーヴェの子孫：西洋の影の王たちの正体

So, 誰が実際にこの劇を操っているのでしょうか？私たちには確実なことは分かりません。なぜなら、西洋の資本の王たちは自らを影に隠しているからです。あらゆる理論が存在しており、公的な人物から地球外生命体までさまざまですが、私がこの問い合わせに対して持っている最良の答えは、「アマルッラ（Amallulla）」という偽名で活動していた匿名ブロガーの生涯の業績にあります。彼の仕事は、古代と現代の歴史、オカルトの象徴、西洋政治の広範な総合で成り立っていました [23, 7]。

アマルッラは、「ヨーヴェの子孫」と呼ばれる三つの西洋の政治派閥を特定しました。彼らは「終末」（地球の周期的な大災害）についての知識を持っている者たちです。彼は、これら三つの派閥が現在も西洋諸国を支配していると信じていましたが、その起源や歴史的アイデンティティ、過去にあったかもしれない対立、価値観や行動の違いに基づき、三つの異なるグループに分けられるとしました。

この三つの派閥は、おおまかに次のように分類できます：

1. 銀行家：古代ローマのエリートで、やがてテンプル騎士団やアメリカの北部管区フリーメーソン

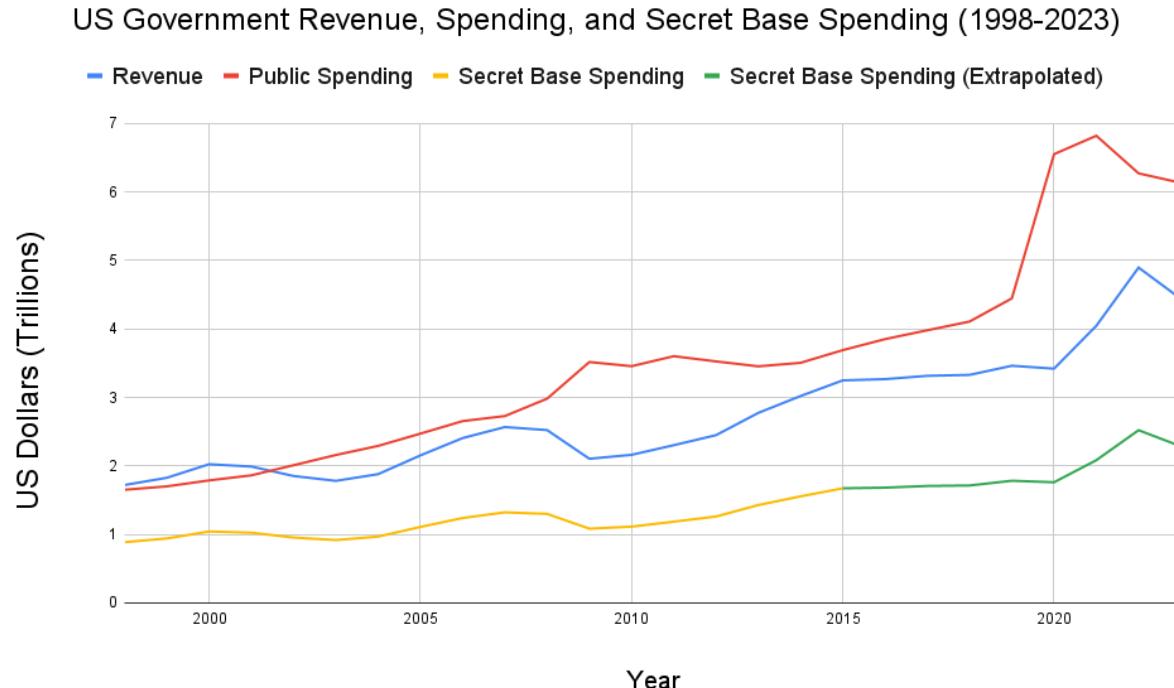


Figure 9. 米国政府の収入、支出、および秘密の地下基地支出（1998 年から 2023 年）[29].

へと変化しました。

2. 思想家: 薔薇十字団とアメリカ南部のフリーメーソン。
3. イエズス会とブラック・ポープ: ローマ・カトリック教会内のヨーヴェの子孫の派閥。

現在、これら三つの派閥はヨーロッパのイルミナティ、フリーメーソン、CIA を構成しています。アマルラが述べたように、「まさに今、この終末の時代において、ヨーヴェの子孫は知る必要のある範囲の機密保持によって巧妙に隠されています。そこにはアメリカ合衆国大統領すら含まれていません。言い換えれば、彼らは自らを公衆の監視から隠す術を極めました。ヨーヴェの子孫はアメリカ合衆国の軍と政府だけでなく、不換紙幣と大企業、そして彼ら自身が発明した（政治家が簡単に腐敗し、したがって統制できることを見越して）共和制の力を通じて、西洋世界全体を支配しているのです」[23, 7]。

アマルラによれば、彼らは宗教を軽蔑し、世界の主要宗教の聖典を自分たちの利益のために操作し、豊富な象徴主義を用いるという。さらに、敵に対しては容赦がない：“2,600 年以上にわたって、彼らは系統的に終末の知識を持つ他の者たちを排除してきた。そして、それにはドルイド、ユダヤのカバラリスト、古代エジプト人、アラブ人、インドの神秘家だけでなく、南米の長頭骨を持つ人々や中米のマヤの司祭たちも含まれる。また、この地を“終末の地”として守るた



Figure 10. ジョーヴェの子孫とは一体誰なのか？(画像 : [36])

めに、かつて繁栄していた北米の住民を根絶やしにした証拠は圧倒的に多い。アメリカ “インディアン” の大量虐殺は、ほんの掃討作戦に過ぎなかったのだ” [23, 7]。

アマルラはまた、「アメリカ合衆国」という全体のプロジェクトは、「パイクス・ピーク花崗岩バソリス」というロッキー山脈に位置する地球物理的災害から優れた防護を提供する花崗岩の山岳地帯を確保する目的で実施されたと考えていた（図 11）。アマルラによれば、”南北戦争の前後を問わず、銀行家や思想家たちは、アメリカ合衆国自体を手中に收めるというよりも、パイクス・ピーク花崗岩バソリスを巡って争ってきたのだ。それは世界でも最もユニークな花崗



Figure 11. 赤色でハイライトされている有名なパイクス・ピーク花崗岩バソリスと、アメリカ西部の風景 [25]。アメリカ合衆国は本当にこの場所を支配するために構想されたのだろうか？

岩バソリスの一つで…このような高高度で、これほど海岸線から離れた場所にある花崗岩バソリスは世界のどこにも他にない。地殻変動を生き延びるための理想的な場所である” [23, 7]。アマルラの研究によれば、現在この地域の地下および周辺には広範な地下トンネル網が築かれていることが明らかになっている [25]。

5. 結論

本稿では、西洋のエリートたちが何千年にもわたり地球の周期的な大災害に関する知識を慎重に保存してきたこと、近い将来に再び大災害が起こると信じていること、そのような事態に備えて大規模な地下シェルターを建設していること、そしてこの機会を政治的・軍事的に利用して世界支配を目指していることを示唆する様々な証言について詳述しました。また、アメリカでどのように資金が調達されたかについての手がかりや、この計画を担う血統に関する、最も突飛でない説にも言及しました。さらに知りたい方は、参考文献を深く調べることで、本稿で割愛した多くの追加情報を見つけることができます。

皆さんの幸運を祈ります。

6. 謝辞

知識をパブリックドメインに提供することを選択したすべての方々に感謝します。あなた方がいなければ、この仕事は不可能だったでしょうし、人類はこ

れからも闇の中に留まつたままだったでしょう。あなた方の決断は永遠に花開くことでしょう。私たちはすべてをあなた方に負っており、私は心から感謝しています。

References

- [1] Arch Mission Foundation. “global knowledge vault” . <https://www.archmission.org/gkv>, Jan. 2024. Accessed: 2025-06-11.
- [2] A. Capaccio. Pentagon racks up \$35 trillion in accounting changes in one year. Bloomberg News, Jan. 2020. Accessed June 10, 2025.
- [3] Cryptome. “navy undersea subs” . <https://cryptome.org/2022/07/navy/navy-undersea-subs.htm>, July 2022. Accessed: June 14, 2025.
- [4] J. Dewinter. The last druid. Documentary film, 1992. A documentary on Ben McBrady, the last known member of the pre-Druid Megalithic Order, “The Old Gaelic Order.” .
- [5] J. Duggan. “norway: ‘doomsday’ vault where world’s seeds are kept safe” . Time, Apr. 2017. Accessed: 2025-06-10.
- [6] C. A. Fitts. What’s up underground? with richard dolan. Solari Report website, Mar. 2015. Accessed June 10, 2025.
- [7] Internet Archive. “archived versions of amallulla.com” . https://web.archive.org/web/20220801000000*/amallulla.com, 2025. Accessed: 2025-06-11.
- [8] Junho. Ecd0 github research repository, 2024. <https://github.com/sovrynn/ecd0>.
- [9] Junho. Junho’s website, 2025.
- [10] MSUToday, Michigan State University. Msu scholars find \$21 trillion in unauthorized government spending; defense department to conduct first-ever audit. MSU-Today, Dec. 2017. Accessed June 10, 2025.
- [11] Pinterest user (anonymous). British empire map. Pinterest (image pin), June 2025. Accessed June 10, 2025.
- [12] Project Camelot. “a letter from a norwegian politician” . <https://projectcamelot.org/norway.html>. Accessed: 2025-06-11.
- [13] E. Richards. Where is the pentagon in relation to the white house? Metro. Accessed: 2025-06-11.
- [14] M. Robinson. “billionaires are stockpiling land that could be used in the apocalypse —here’s where they’re going” . Business Insider. Accessed: 2025-06-11.
- [15] B. i. Ryan and A. (witness). “the anglo-saxon mission: Witness audio interview transcript” . Project Avalon website, Feb. 2010. Audio interview recorded January 2010; transcript published February 2010.
- [16] R. Sauder. Hidden in Plain Sight: Beyond the X-Files. Adventures Unlimited Press, Kempton, Pennsylvania.
- [17] T. E. Skeptic. <https://theethicalskeptic.com/>.
- [18] T. E. Skeptic. Master exothermic core-mantle decoupling -dzhanibekov oscillation (ecd0) theory, 2024. <https://theethicalskeptic.com/2024/05/23/master-exothermic-core-mantle-decoupling-dzhanibekov-oscillation-theory/>.
- [19] M. Skidmore. Missing money 2021 update: Addendum to missing money—june 2021. Solari Report website, June 2021. Accessed June 10, 2025.
- [20] M. Skidmore and C. A. Fitts. Should we care about secrecy in financial reporting? The Real Game of Missing Money series (Solari Report), Feb. 2019. Accessed June 10, 2025.
- [21] Solari Report. Blast from the past: Week of october 2, 2023: What’s up underground? with richard dolan. The Solari Report, Oct. 2023. Accessed June 10, 2025.
- [22] South Tyrol Blog. “south tyrol’s bunker landscape” . <https://www.south-tirol.com/blog/south-tyrols-bunker-landscape>, Oct. 2023. Published October 13, 2023; Accessed: 2025-06-11.
- [23] sovrynn. “ecd0/6-literature-media/amallulla” . <https://github.com/sovrynn/ecd0/tree/master/6-LITERATURE-MEDIA/amallulla>, 2025. Accessed: 2025-06-11.
- [24] sovrynn. “ecd0/6-literature-media/project-camelot” . <https://github.com/sovrynn/ecd0/tree/master/6-LITERATURE-MEDIA/project-camelot>, 2025. Accessed: 2025-06-11.
- [25] sovrynn. “№ 58. the multi-trillion-dollar granite tunnel system in the pikes peak batholith | an apocalyptic synthesis” . https://github.com/sovrynn/ecd0/blob/master/6-LITERATURE-MEDIA/amallulla/%E2%84%96%2058.%20The%20multi-trillion-dollar%20granite%20tunnel%20system%20in%20the%20Pikes%20Peak%20batholith%20_%20An%20Apocalyptic%20Synthesis.html, 2025. Accessed: 2025-06-11.
- [26] Statista. Receipts of the u.s. government since fiscal year 2000. Statista, 2025. Accessed June 10, 2025.
- [27] J. J. Stevens. “why does switzerland have more nuclear bunkers than any other country?” . The Guardian. Accessed: 2025-06-11.
- [28] Svalbard Global Seed Vault. “svalbard global seed vault: Safeguarding seeds for the future” . <https://www.seedvault.no/>, 2025. Accessed: 2025-06-11.
- [29] Tax Policy Center. Federal receipt and outlay summary. Tax Policy Center website, May 2024. Accessed June 10, 2025.
- [30] The Editors of Encyclopaedia Britannica. Freemasonry. Encyclopædia Britannica, May 2025. Last updated May 19, 2025.
- [31] Unknown uploader (YouTube user). The last druid. YouTube video, Mar. 2017. Released approximately 7.3 years ago; documentary on Ben McBrady, known as the last member of the Old Gaelic Order.
- [32] s. G. user). “anglo-saxon-mission” [folder] in *ecd0 / 1-evidence / conspiracy-theories / elite-intel*. GitHub repository, 2025. Accessed June 10, 2025.
- [33] s. G. user). “catherine-fitts” folder in *ecd0 / 6-literature-media* repository. GitHub repository, June 2025. Accessed June 10, 2025.
- [34] Wikipedia contributors. Federal reserve. https://en.wikipedia.org/wiki/Federal_Reserve, May 2025. Last modified on May 2025.
- [35] Wikipedia contributors. “druid”. Wikipedia, The Free Encyclopedia, 2025. Last edited June 2025; accessed June 10, 2025.

[36] M. Wilson. “the eye of providence: The symbol with a secret meaning”. BBC Culture. Accessed: 2025-06-11.